

水稻の生育状況と今後の管理対策（第7号）

令和5年7月26日
新潟県農林水産部

〔7月25日現在の県内全域の生育状況〕

- ◎ コシヒカリの葉色は、県全体では指標値（生育のめやす）に比べ「並」の状況ですが、地域差、ほ場間差が大きくなっています。
- ◎ 新之助の葉色は、指標値に比べ「並」ですが、地域差が大きい状況です。

〔気象予報と今後の生育見込み〕

- ◎ 北陸地方の梅雨明けは、平年より2日早い、7月21日頃（速報値）でした。
- ◎ 7月20日発表の1か月予報によると、向こう1か月（7/22～8/21）の気温は高く、特に期間の前半は、かなり高くなる可能性があります。また、7月30日頃からはかなりの高温（5日間平均気温平年差+2.2℃以上）が予想されています。
- ◎ 今後も高温が続く見込みであることから、葉色低下が進み、栄養不足による品質低下につながる懸念があります。

〔今後の管理対策のポイント〕

コシヒカリ

- ◎ 分施肥体系で、2回目の穂肥^{*1}を施用していないほ場では、出穂後の栄養を維持するため、必要量を確実に施用してください。葉色の変化に注意し、葉色が指標値より低い場合には、地域の農業普及指導センターやJA等の技術情報を参考に、出穂期の3日前までに3回目穂肥を施用してください。
- ◎ 全量基肥施肥^{*2}のほ場では、葉色の変化に注意し、栄養凋落が予想される場合には、ほ場条件等を考慮した上で、追肥を検討してください。
- ◎ 有機質100%肥料を穂肥に利用する場合は、化学肥料よりも早めに施用してください。
- ◎ 出穂期前後は最も水を必要とする時期です。出穂期25日後まで飽水管理^{*3}を継続し、根の活力維持を図るとともに地温の上昇を抑えてください。

新之助

- ◎ 分施肥体系の2回目穂肥（出穂期12～10日前）は、地域の農業普及指導センターやJA等の技術情報を参考に、穂肥施用時の葉色に応じて施肥量を調節して、適正な出穂期の葉色に誘導してください。
- ◎ 全量基肥施肥のほ場では、葉色の変化に注意し、栄養凋落が予想される場合には、気象やほ場条件等を十分に考慮した上で、追肥を検討してください。
- ◎ 出穂期25日後まで飽水管理を継続し、根の活力維持を図ってください。
- ◎ いもち病の発生に注意しながら、ほ場を良く観察し、発病を認めた場合は速やかに薬剤防除を行ってください。

*1 穂肥（ほごえ）：穂が出る前に追肥すること

*2 全量基肥施肥：全生育期間に必要な肥料成分を、田植え前または田植え時に一括して施す施肥法のこと

*3 飽水管理（ほうすいかんり）：土壌を湿潤状態に保つこと

早生品種

- ◎ 高温に対応するため、田面を乾かすことなく、出穂期 25 日後まで飽水管理を継続して根の活力を維持し、登熟後期まで栄養状態を確保して、高品質を目指しましょう。
- ◎ 品種ごとに出穂期を確認し、斑点米カメムシ類の適期防除を徹底してください。特に、割れ粳が発生しやすい品種では、斑点米被害のリスクが高いため、出穂状況を確認しながら、適期を逃さず、確実に防除を実施してください。
- ◎ 多肥栽培では、いもち病の発生に注意し、穂いもちの予防防除を適切に行ってください。

熱中症予防

- ◎ 7月25日の2週間気温予報によると、8月初めにかけて最高気温が32～35℃の暑い日が続くと予想されています。
- ◎ 草刈りや穂肥施用など屋外での農作業は、気温の高い時間帯を避け、水分補給や休憩時間を十分に確保するなどの熱中症予防と健康管理に十分注意してください。
- ◎ 特に、「熱中症警戒アラート」が発表されている日は、熱中症の危険性が極めて高いので、のどが渇く前にこまめに水分補給するなど、いつも以上に積極的に熱中症の予防に努めてください。

フェーン発生時の対応

- ◎ 県からのフェーン・異常高温緊急情報や最新の気象情報・台風の進路に注意し、フェーン現象の発生に備えましょう。地域の配水計画を確認して、対応可能なところから、水管理の準備を進めてください。

- ◎ 今後の管理対策発信予定日 9月8日

〔補足資料〕

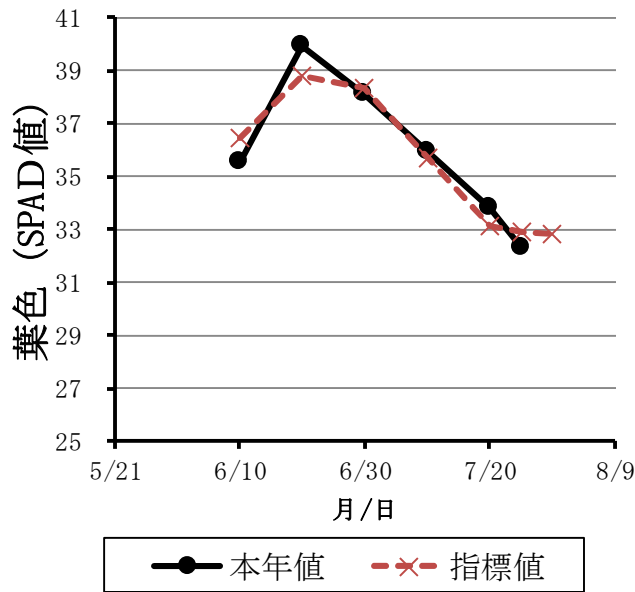
1 農業普及指導センター及び作物研究センターにおける生育状況（7月25日現在）

コシヒカリ

○ 葉色は指標値と比べ「並」の状況ですが、地域差、ほ場間差が大きくなっています。

項目	本年値	指標値 (県平均)	指標値 との比較	指標値差
葉色 (SPAD 値)	32.3	32.9	並	-0.6

注) 県内全域の15生育調査ほデータの平均値(田植え5月11日、栽植密度16.9株/㎡)



コシヒカリ葉色 (SPAD 値) の推移 (県全体)

○ 高温が予想される場合は、外観品質を向上させるため出穂前に緊急追肥が必要な場合があります。下表をめやすに3回目の穂肥施用を検討してください。

分施肥系における高温が予想される場合の3回目穂肥のめやす

施肥体系 (施肥: 基肥+穂肥)	判断時期と葉色のめやす	施肥時期、施肥量
化学肥料+化学肥料体系 (慣行栽培) ※ 3回目も化成肥料施用	出穂期3日前の葉色 (SPAD 値) が31以下のとき	出穂期3日前に窒素成分で1kg/10aを上限として施用
有機質入り肥料+有機質入り肥料体系 (減減栽培) ※ 3回目に有機50%肥料施用	出穂期6日前の葉色 (SPAD 値) が33以下のとき	出穂期3日前に窒素成分で1kg/10aをめやすに施用
有機質入り肥料+ 有機質入り肥料体系 (減減栽培) ※ 3回目に有機100% 肥料施用	標準的な地力のほ場	出穂期6～3日前に窒素成分で1kg/10aをめやすに施用
	低地力のほ場	幼穂形成期の葉色 (SPAD 値) が31未満のとき 出穂期6～3日前に窒素成分で2kg/10aをめやすに施用

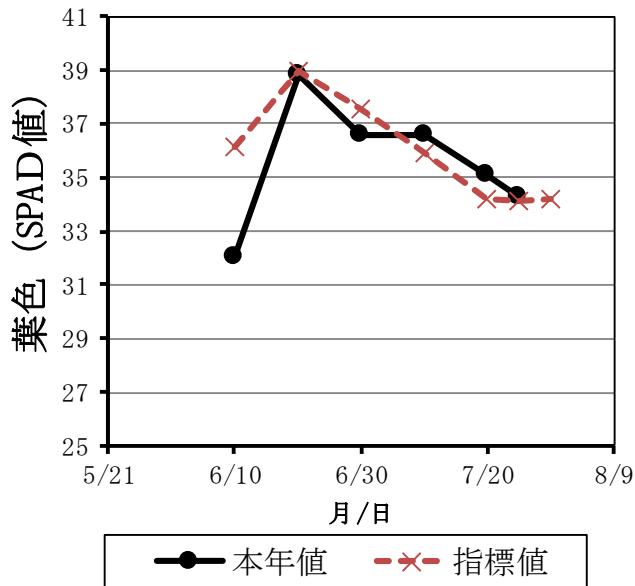
※ 有機質入り肥料は、有機質由来の窒素を5割程度含む肥料のことである。

新 之 助

○ 葉色は指標値と比べ「並」の状況ですが、地域差が大きくなっています。

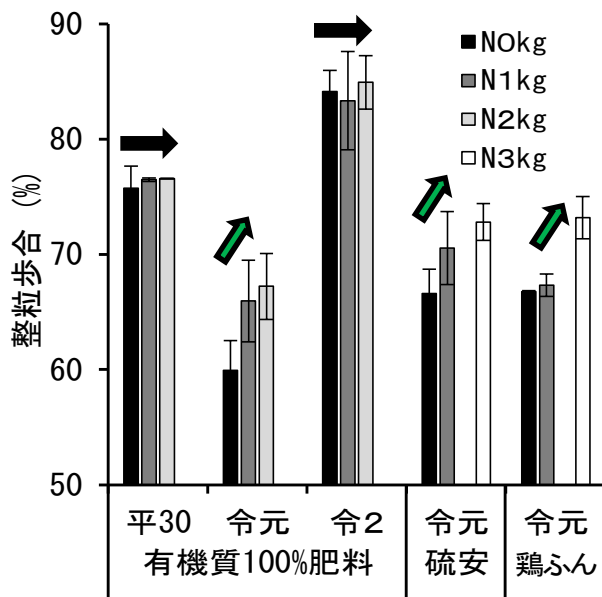
項目	本年値	指標値 (県平均)	指標値 との比較	指標値差
葉色 (SPAD 値)	34.3	34.1	並	+0.2

注) 県内全域の15生育調査ほデータの平均値 (田植え5月17日、栽植密度16.2株/m²)



新之助葉色 (SPAD 値) の推移 (県全体)

○ 登熟期の異常高温や栄養凋落が予想される場合で、出穂期3日前の葉色値が34未満の場合は追肥を検討してください。



○判断時期・葉色値のめやす
出穂期3日前・葉色値34未満
(完全展開第2葉を測定)

○施肥時期
出穂期3日前 (ただし、穂肥
2回目から7日以降)

○使用肥料と施肥窒素量
有機質100%肥料・2kg/10a
以内
化学肥料・1kg/10a以内

出穂期3日前の追肥量と整粒歩合の関係

こしいぶき (参考)

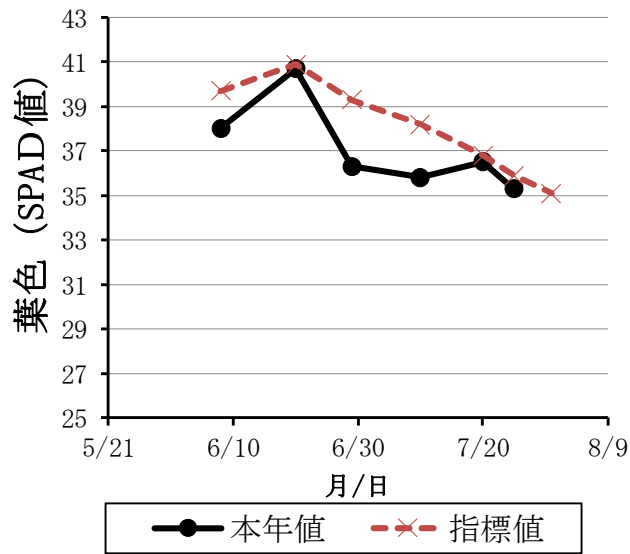
○ 指標値に比べ、葉色は「並」の状況です。

項目	本年値	指標値	指標値との比較	指標値差
葉色 (SPAD 値)	35.3	35.9	並	-0.6

注1) 化学肥料栽培 田植え 5月10日、栽植密度 21.7株/m²、幼穂形成期 7月6日 (平年差+1)

注2) 基肥窒素成分量 3.0kg/10a、穂肥窒素成分量 2.0kg/10a (1.0kg×2回分施: 7月6日、7月14日)

注3) 長岡市長倉町 (作物研究センター) の生育調査ほデータ



こしいぶき葉色 (SPAD 値) の推移

こしいぶきの幼穂形成期

	本年値	前年差	平年差
幼穂形成期	7月6日	+1日	+1日
出穂期	7月27日見込み	±0日	±0日

◎ 出穂期は平年並の7月27日の見込みです。